

校内研修計画

甲州市立松里小学校

1. 学校課題

本校では昨年度までの3年間、豊かな学びを作り出すために「子どもたち一人一人の伝え合う力を高める研究」を掲げ「話すこと・聞くこと」の言語活動に焦点をあて研究実践を進めてきた。言語活動の具体的な手立てとして、「声のものさし」や「話し方 あいうえお」「聞き方 かきくけこ」、「場の工夫」などを掲げ日常的に取り組むことで、「話すこと・聞くこと」の意識を高めることができた。また、授業実践では、一人一人が課題に対して思いや考え持ち、伝え合う活動を通してより学習の価値に迫る授業が展開された。それらを通して、表現する機会を意図的に取り入れることで、子どもが進んで考え伝えようとする姿勢がさらに高まり、経験を積み重ねる事ができた。

これまでの研究から、伝え合う場面を意図的に取り入れる事は、自分の考えを深めたり広げたりする上で大きな学習効果が期待できる活動であると言えるだろう。しかし、より充実した伝え合う活動を行うためには、一人一人が学習課題を理解し自分の考えを持つこと、また、考えの理由や根拠を表わすことや互いの考えの共通点や相違点に気付いて学び合うことなどについては、さらに力を伸ばす必要性が感じられた。そこで、今年度は3年間研究した、伝え合う力を土台として、算数科における基礎的な知識や技能を身につけ、考える力を育む授業作りを通して、いきいきと学びをつくる子ども像を目指していきたいと考える。

2. 研究主題

いきいきと学びをつくる子どもの育成
～ 算数科を通して、考える力を育む授業づくり ～

3. 主題設定の理由

研究主題『いきいきと学びをつくる子どもの育成』の「いきいき」とは、元気で活気があり子どもらしい姿である。子どもにとって、授業とは新たな価値を知る、新鮮な出会いの場であると言える。新しいことを学ぶ期待をわくわくとふくらませ、自分の可能性を信じて学びに向かうことができれば、自信や充実感を得ることができるであろう。子どもたちの「いきいきとした瞳」「いきいきとした表情、活動」が教室で生まれるような、意欲的な学びをつくり出していきたいと考える。

「学びをつくる」とは、学習課題を理解して、意欲的に課題に取り組み、問題解決に個人および集団で取り組む過程である。子どもの視点から見ると、課題がわかり、解決の方法が考えられ、できるようになる楽しさや喜びとして捉えられるであろう。いきいきと意欲的に学びをつくる姿とは、まさに学習者として自立した姿でもある。

今年度は、この研究主題に迫るために、算数科における授業づくりを通して取り組んでいきたいと考える。

課題を理解して解決の見通しを持つためには、系統性の高い算数科において基礎学力は大切な力である。なぜなら、今までの学びの積み重ねが児童の学習意欲や集中力に与える影響はとても大きいからである。基礎的な知識や技能を身につけることは、新しい学びをつくり出す一歩を支え、教師から与えられる学習でなく、いきいきと主体的に学びに向かう姿が生まれるのであろう。

また、授業においては、式や答えを問うだけでなく、半具体物の操作活動や絵や図、言葉や式を用いて自分なりに解決方法を見つける、「考える」過程を大切にしたい。それによって、子どもが学習課題を内なる問いとして持ち、学びの主人公となるであろう。また、さらに伝え合う場面においては、考えの理由や根拠を説明することで、より理解を深められたり、互いに認めあったりすることができるであろう。

子どもたちに算数科でつけさせたい力を、「基礎学力」と「考える力」と捉え、そのための様々な指導の工夫と、「確かな学力プロジェクト」における授業づくりの取り組みとを共に行うことで『いきいきと学びをつくる子どもの育成』に迫ることができると考え、本主題を設定する。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的な研究内容

○基礎学力を身につける指導の工夫

- ・新しい知識や技能の定着（視覚的 ポイント）・朝学習の充実
- ・少人数、個別指導の充実（スモールステップ教材）・家庭学習の習慣化

○考える力を育む指導の工夫

- ・自分の考えをもつ場面設定や活動・具体的な操作活動や体験的な活動
- ・絵や図、言葉や式を用いて考える得る活動・伝え合う活動

○わかる授業の展開（確かな学力プロジェクト）

- ・授業の構造化・板書の工夫・ノート指導・学習環境の整備 学習規律
- ・集団作り（Q-Uテストの分析 児童の実態把握）
- ・意識調査（子どもの意識や変容を知る）

(2) 研究の方法

○算数科でめざす確かな学力についての研修

- ・講師を招いての理論研修 ・授業研究会への参加（「確かな学力」育成プロジェクト）

○部会ごとの公開授業研究（低 高）

○一人一実践

5. 研究計画

研究主任

金子 佐由美

テーマ	教科領域	内 容	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
「確かな学力」育成	算 数 科	校内研究の方向性と研究内容・研究体制	研究主任			
		研究内容・研究体制の決定・授業者	研究主任			
		Q-Uの分析とK13法の実施 意識調査	研究主任	全学年		
		学習会「算数教育について」 一瀬先生 基礎学力/考える力/わかる授業の展開について	研究主任			
		P①学級づくり学習会 品田先生	全員参加			
		意識調査考察（1回目 低 高） 基礎学力/考える力/わかる授業の展開について	研究主任	全学年		
		P②授業づくり講演会 水戸部先生	全員参加			
		授業案づくり（単元設定）	ブロック			
		教育課程還流報告 学習会？ （特別支援教育研修会）授業案づくり Q-Uの分析とK13法の実施による2学期の取り組み	研究主任 ブロック	全学年		
		授業案づくり	ブロック		10/7 （予定）	○
		授業案検討 I	研究主任			
		授業実践提案 研究会 I	研究主任			
		P③小学校授業研究会 盛山先生	全員参加			
		授業案検討 II	研究主任			
		授業実践提案 研究会 II	研究主任		11/4 （予定）	○
		Q-Uの分析とK13法の実施	研究主任	全学年		
		P④教育講演会 河村先生	全員参加			
		ブロック研究のまとめ	ブロック			
		意識調査考察（2回目 低高） ブロックまとめ還流 研究紀要の内容と分担	研究主任	全学年		
		P⑤集団作り講演会 鹿嶋先生	全員参加			
今年度の成果と課題について	研究主任					
今年度のまとめと来年度へ向けて	研究主任					
研究紀要作成	研究主任					

9. 司会・記録について

- 司会 大村→飯島よ→渡邊→滝島→中村→菰原→小河→平山 (教務より)
- 記録 平山→小河→菰原→中村→滝島→渡邊→飯島よ→大村→飯島み→下條 (1年より)

現行の成新学習指導要領において、

「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」

平成20年小学校学習指導要領解説 算数編において

「根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えをわかりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。」